

# 第3次亀岡市環境基本計画策定に向けて

～ 骨子案 ～

検討用資料

## 1. 骨子及び目指すべき方向性の整理

### (1) 骨子＝目次構成（案）

「・」は記載イメージ

<p>1. 計画の策定にあたって（計画の基本的事項）</p> <p>(1) 計画策定の背景・経緯</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・策定に至った背景と経緯、策定の目的等を記載</li></ul> <p>(2) 計画の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・上位計画・関連計画（第5次亀岡市総合計画、緑の基本計画等）との位置づけを記載</li></ul> <p>(3) 計画の計画期間</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・10年計画とし、必要に応じて中間見直し等がある旨を記載</li></ul> <p>2. 亀岡市の現状及び課題（市の現状分析）</p> <p>(1) 亀岡市の現状</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本市の現状について、統計資料等より抜粋して掲載（別紙）</li></ul> <p>(2) 亀岡市の環境をめぐる課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現在、検討中の課題を記載</li></ul> <p>3. 亀岡市の目指すべき方向性（総論）</p> <p>(1) 目指す環境像</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第3次計画で目指すべき亀岡市の環境像を記載</li></ul> <p>(2) 施策の方向性及び体系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目指す環境像の実現に向けて取り組むべき施策を整理し、方向性及び体系を記載</li></ul> <p>4. 施策の展開（各論）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・具体的施策を分野別に整理し、目標値の設定、SDGsの関係性等を記載</li></ul> <p>5. 重点戦略の設定（各論）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今後10年間に重点的に取り組む戦略を整理し、目標値の設定、SDGsの関係性等を記載</li></ul> <p>6. 計画の推進に向けて（推進体制、進捗管理）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・推進体制の記載</li><li>・目標値の達成状況等の検証、進捗状況の管理の記載</li></ul>
---

### ■今後の検討課題

例1) 第5次総合計画等と整合のとれた、市の計画として統一感をもたせる。

例2) 市民など幅広い方に「見て・読んで、実行して」もらえるよう、コンパクトで分かりやすい内容とする。

## (2) 目指すべき方向性の整理

### ①上位計画における方向性

#### 第5次亀岡市総合計画（令和3年4月策定）

##### ■目指す都市像

人と時代に選ばれる リーディングシティ亀岡

##### ■重点テーマ

- ・子育てしたい、住み続けたいまちへ
- ・スポーツ、歴史・文化、観光の魅力で産業が輝くまちへ
- ・世界に誇れる環境先進都市へ
- ・だれもが安心して暮らせる防災・減災、セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ
- ・次代をリードする新産業を創出するまちへ

##### ■施策分野別の基本計画 ～8つの基本方針と取組～

- ①互いを認め合う、ふれあいのまちづくり
- ②安全で安心して暮らせるまちづくり
- ③子育て・福祉・健康のまちづくり
- ④豊かな学びと文化を育むまちづくり
- ⑤地球にやさしい環境先進都市づくり
- ⑥活力あるにぎわいのまちづくり
- ⑦快適な生活を支えるまちづくり
- ⑧効率的で持続可能な行財政運営

## ②国・府における方向性

### 【国（環境省）】第五次環境基本計画（平成30年4月策定）

#### ■目指すべき社会の姿

- ・「地域循環共生圏」の創造
- ・「世界の範となる日本」の確立
- ・これらを通じた、持続可能な循環共生型の社会（「環境・生命文明社会」）の実現

#### ■計画のアプローチ

- ・SDGsの考え方も活用し、環境・経済・社会の統合的向上を具体化
- ・地域資源を持続可能な形で活最大限活用し、経済・社会活動をも向上
- ・より幅広い関係者と連携

#### ■6つの重点戦略

- ①持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築
- ②国土のストックとしての価値の向上
- ③地域資源を活用した持続可能な地域づくり
- ④健康で心豊かな暮らしの実現
- ⑤持続可能性を支える技術の開発・普及
- ⑥国際貢献による我が国のリーダーシップの発揮と戦略的パートナーシップの構築

### 【京都府】第3次環境基本計画（令和2年12月策定）

#### ■将来像

京都の「豊かさ」をはぐくむ脱炭素で持続可能な社会  
～将来世代のために手を携え、環境・経済・社会の好循環を創出～

#### ■計画の基本となる考え方

持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用による環境・経済・社会の好循環の創出

- ・京都府に存在する地域資源の活用
- ・多様なパートナーシップや中間支援組織の活性化・コーディネート機能の発揮
- ・環境問題に携わる人材育成と協働取組の推進

### ③亀岡市の現行計画の方向性

#### 第2次亀岡市環境基本計画（平成24年3月策定）

##### ■テーマ

人と環境にやさしいまち かめおか

～豊かな自然にめぐまれ、人々がいきいきと住めるまち「かめおか」

誇りを持って次世代に引き継ごう～

##### ■目指す環境像

- ・生活環境・快適環境
- ・資源循環・廃棄物対策
- ・自然環境
- ・地球環境・温暖化対策

##### ■今後の検討課題

今後10年間、亀岡市が目指すべき方向性を設定するため、市を取り巻く現状と課題を踏まえるとともに、市の最上位計画である第5次総合計画及び国・府の計画との整合を十分に図る必要がある。

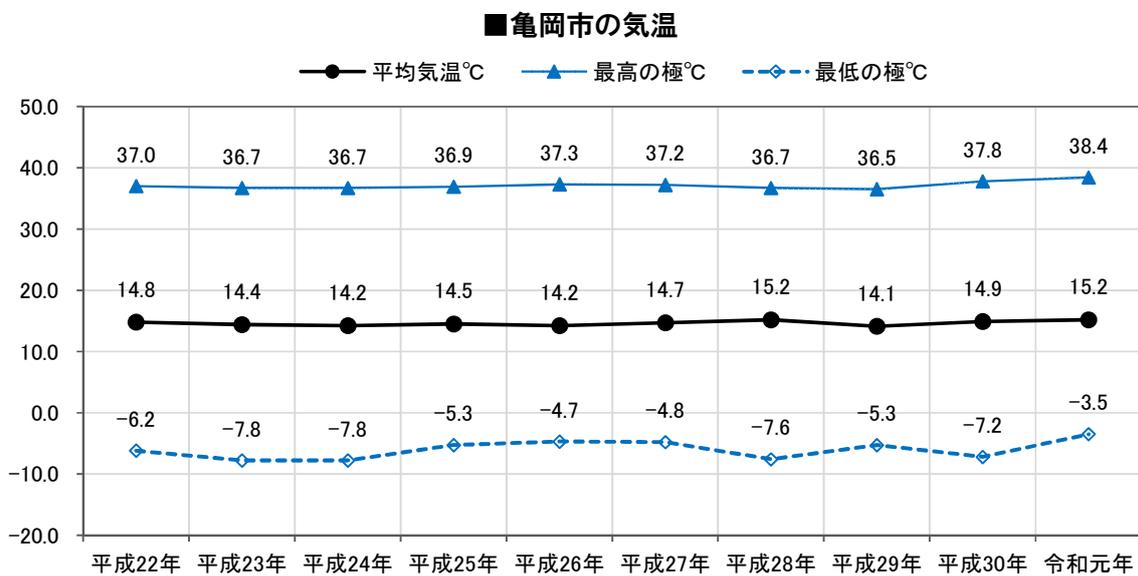


## 亀岡市の現状

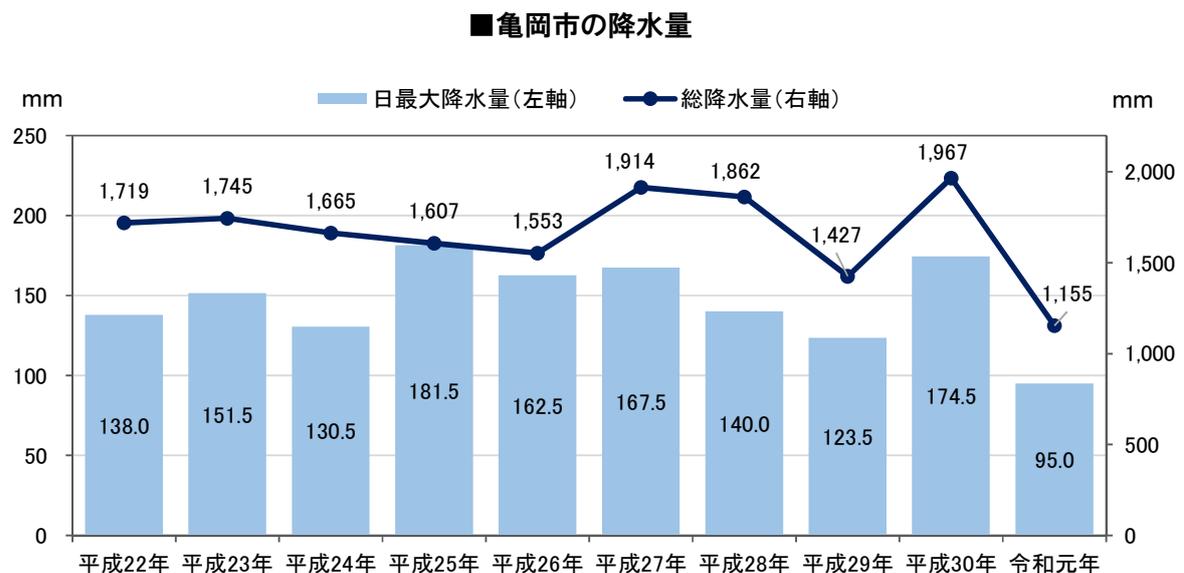
### (1) 地理的特性

亀岡市は、夏と冬の気温差が大きく、昼と夜の気温差も大きいという盆地特有の気候となっています。しかし、この盆地特有の昼夜の気温差が農作物の甘味を増し、高品質の農産物を生み出します。

平成 22 年～令和元年の平均気温をみると、おおむね 15℃前後で推移しています。また、平成 22 年から令和元年の降水量は、1,368mm から 1,155mm の間で推移しています。



資料：亀岡市統計書

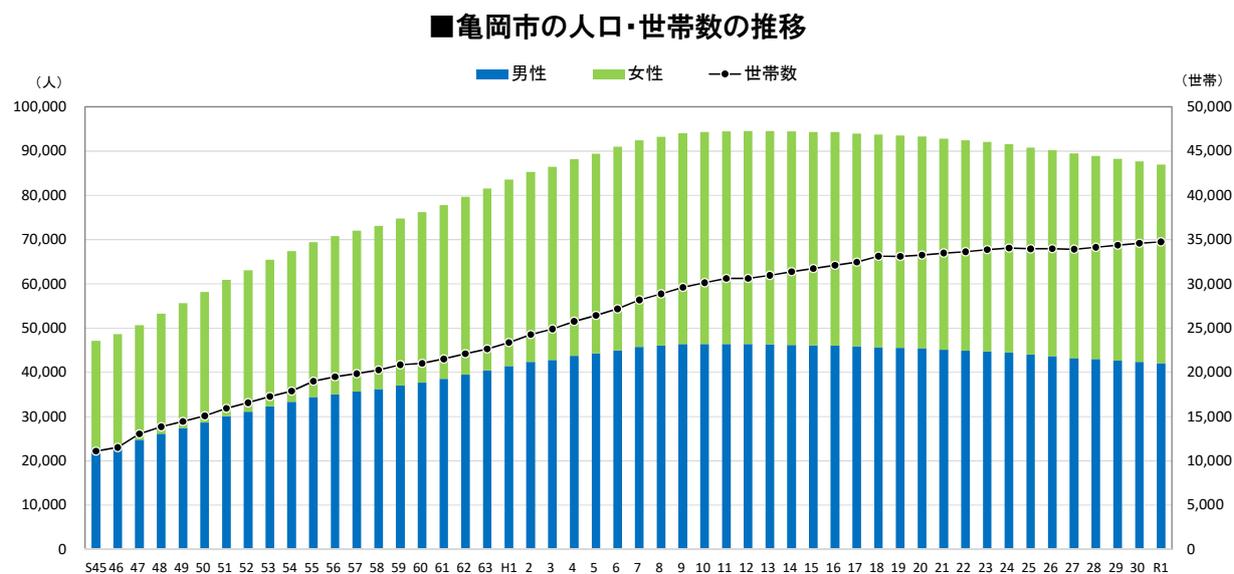


資料：亀岡市統計書

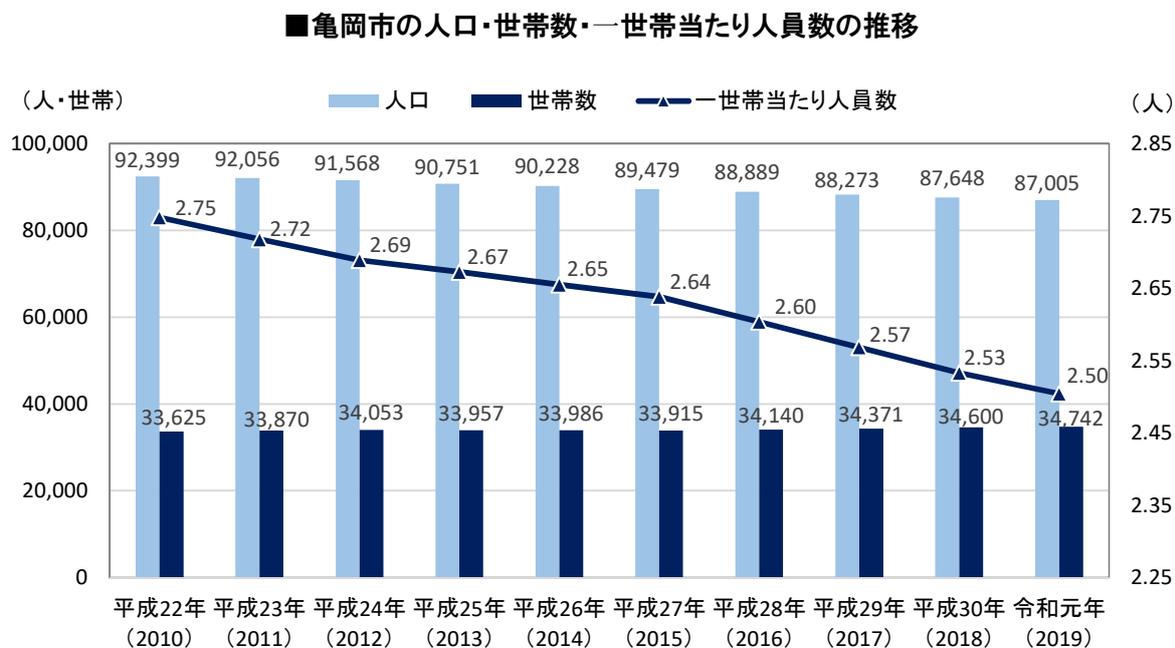
## (2) 社会的特性

### ①人口・世帯数の推移

亀岡市の人口について長期的な推移をみると、平成12年まで増加傾向にありましたが、その後は減少傾向にあります。一方、世帯数は増加傾向にあります。これにより、近年の一世帯当たり人員数は減少が続いています。



資料：「亀岡市統計書」市総務課 国勢調査、推計人口（各年10月1日）

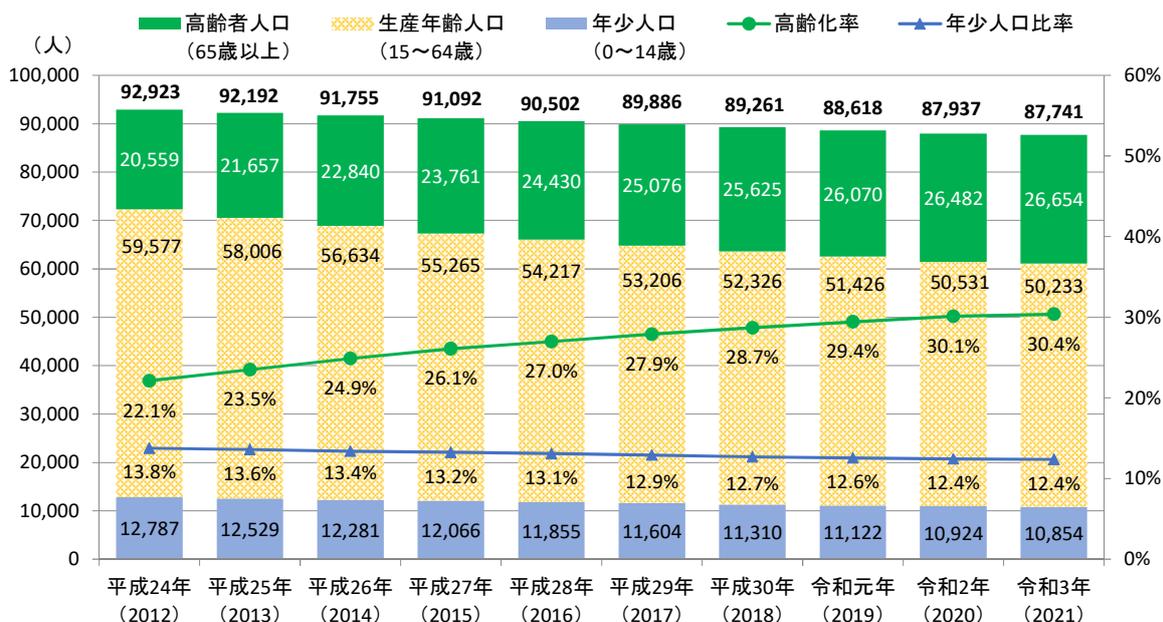


資料：「亀岡市統計書」市総務課 国勢調査、推計人口（各年10月1日）

## ②年齢3区分別人口の推移

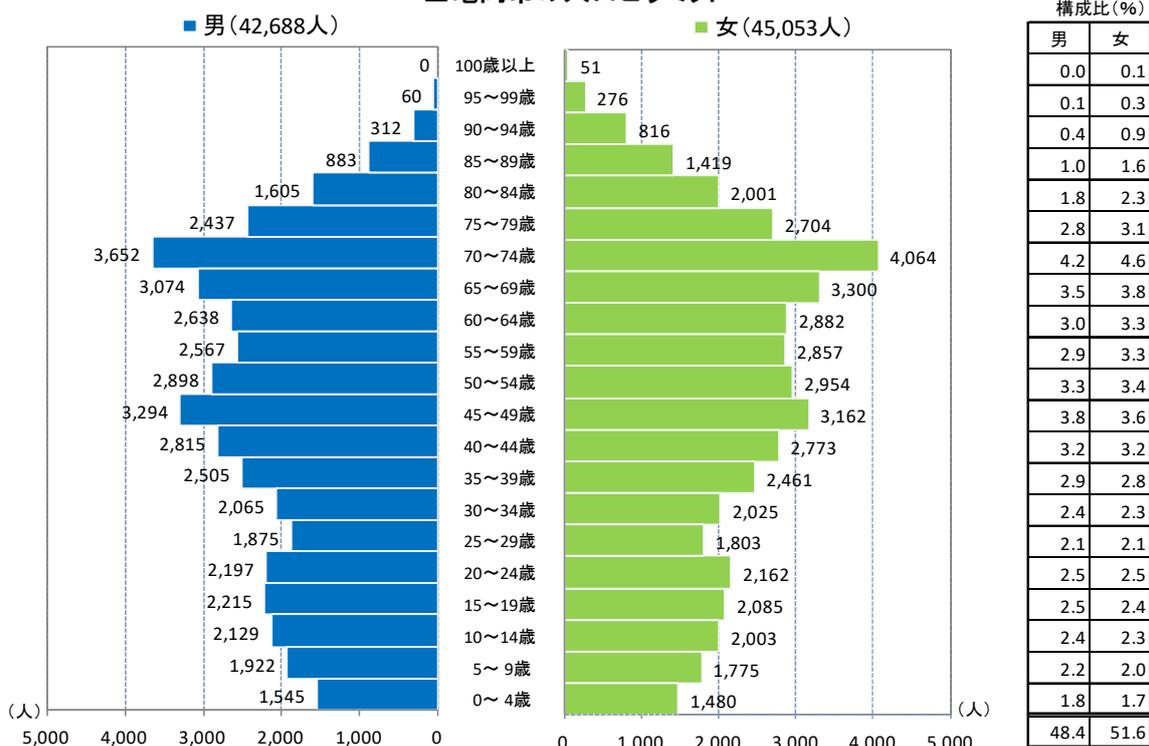
近年の年齢3区分別人口の推移をみると、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口はともに減少が続いていますが、高齢者人口は増加し続けています。これにより年少人口比率は低下が続いている一方、高齢化率は上昇し続け、令和3年4月1日現在で30.4%となっています。また人口ピラミッドをみると男女ともに70～74歳が最も多くなっています。

■ 亀岡市の年齢3区分別人口の推移



資料：年齢別人口統計表（各年10月1日現在。令和3年のみ4月1日現在）

■ 亀岡市の人口ピラミッド



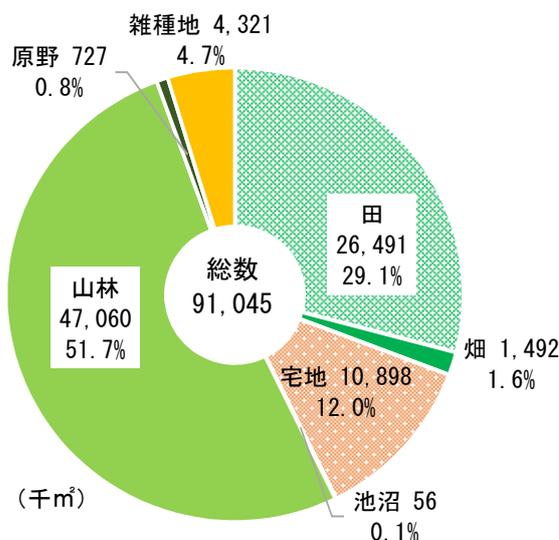
資料：年齢別人口統計表（各年10月1日現在。令和3年のみ4月1日現在）

### ③森林・農地等の状況

亀岡市の地目別土地面積をみると、令和2年1月1日時点では、山林が最も広く4,706万㎡で51.7%を占めています。田は2,649万1千㎡で29.1%、畑は149万2千㎡で1.6%、宅地は1,089万8千㎡となっています。

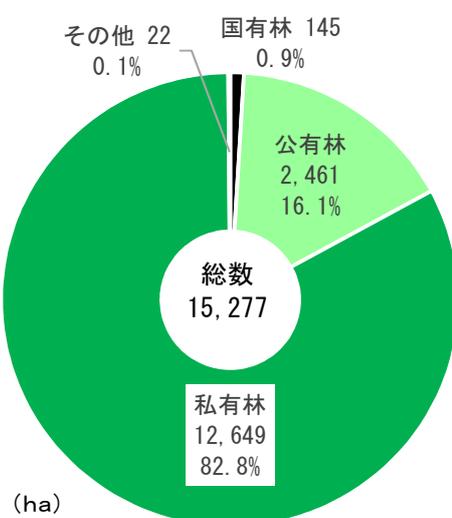
亀岡市の森林面積は平成31年現在15,277ha(3,705,061㎡)で、市域面積(224.8km<sup>2</sup>)の60.7%を占めています。内訳は、国有林が0.9%、公有林が16.1%であり、私有林が最も広い面積を占め82.8%、その他(地域森林計画対象外森林)が0.1%となっています。

■亀岡市の地目別土地面積



資料：亀岡市統計書（令和2年版）  
 ※市税務課（令和2年1月1日現在）  
 注）非課税分の土地を除く

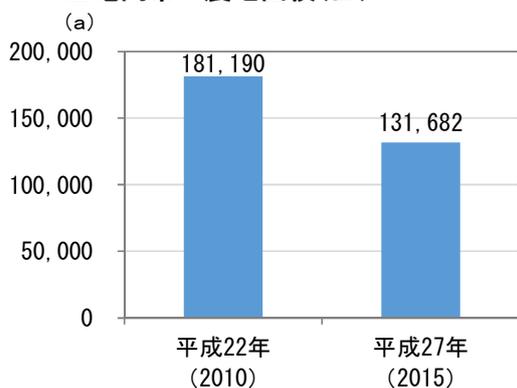
■亀岡市の森林面積



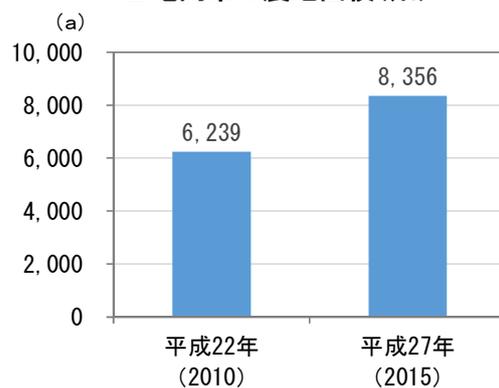
資料：南丹広域振興局

亀岡市の田畑の面積について、平成22年と平成27年で比較すると、田は27.3%低下して平成27年に131,682aと減少している一方、畑は33.9%上昇して平成27年に8,356aと増加しています。

■亀岡市の農地面積(田)

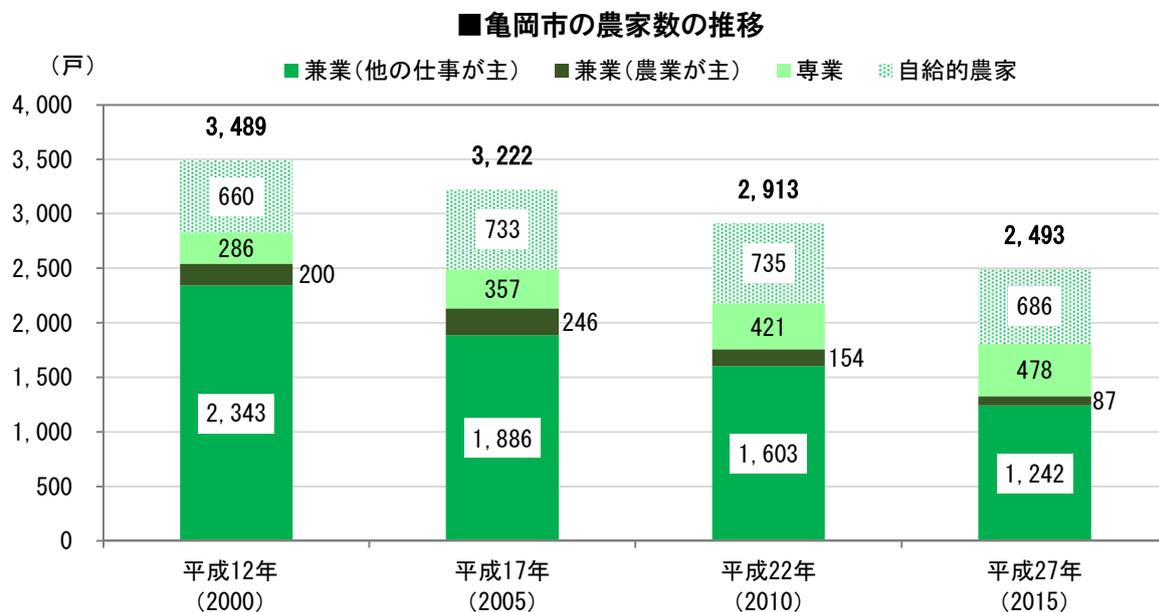


■亀岡市の農地面積(畑)



資料：亀岡市統計書

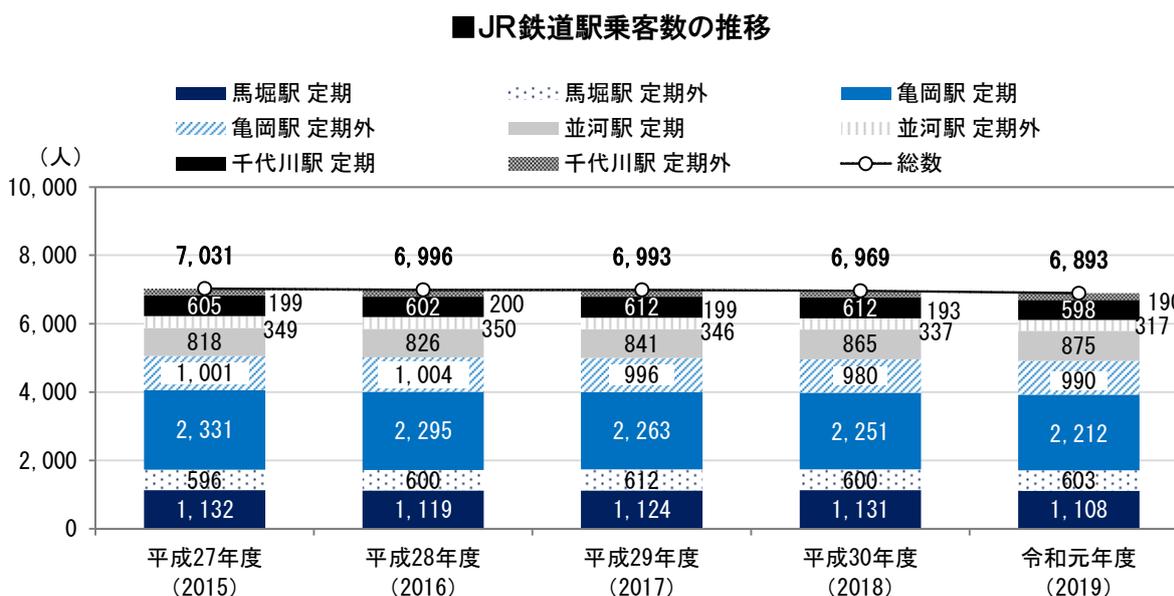
亀岡市における平成12年以降の農家の状況をみると、農家戸数全体としては減少し続けています。内訳をみると、兼業農家につき、他の仕事が主の農家、農業が主の農家ともに大幅に減少しています。一方、専業農家が増加傾向で推移しており、平成27年に478戸となっています。また、自給的農家は増加傾向から平成27年に減少に転じています。



資料：亀岡市統計書

#### ④ 鉄道乗降客の状況

亀岡市のJR鉄道駅の乗客数をみると、総数は僅かな減少傾向にあります。亀岡駅の定期客が最も多く、次いで馬堀駅の定期客が多くなっています。また、並河駅では定期客の増加が続いています。



資料：亀岡市統計書

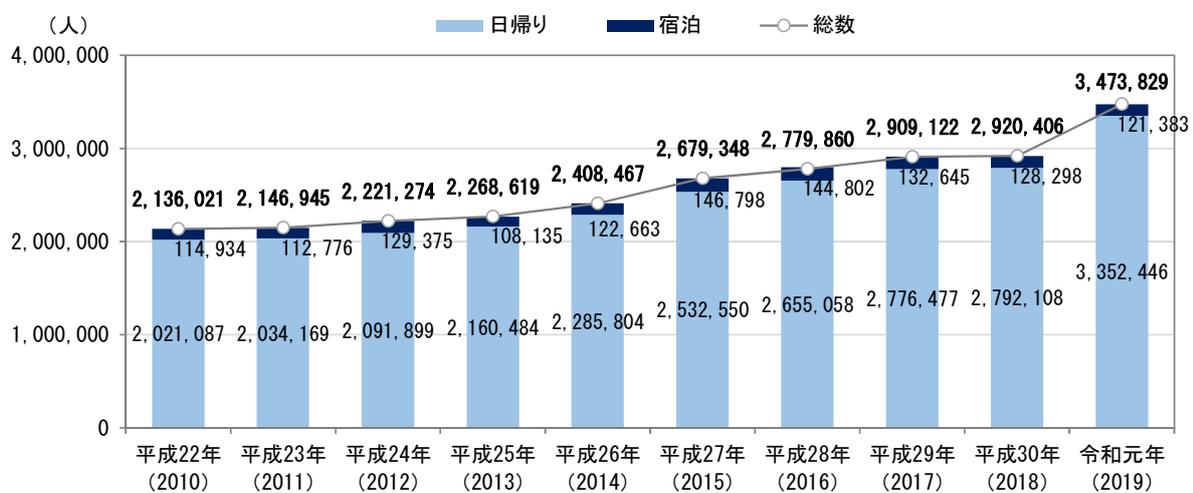
## ⑤観光の状況

亀岡市では、保津川下り、トロッコ列車、湯の花温泉の三大観光をはじめ、神社仏閣や歴史的伝統行催事などの文化遺産を中心に高い関心を集めています。

観光入込客数については増加傾向で推移しており、令和元年に3,473,829人と300万人を大幅に超えました。入込客のうち、日帰り客は増加し続けていますが、宿泊客については、平成27年をピークに減少しています。

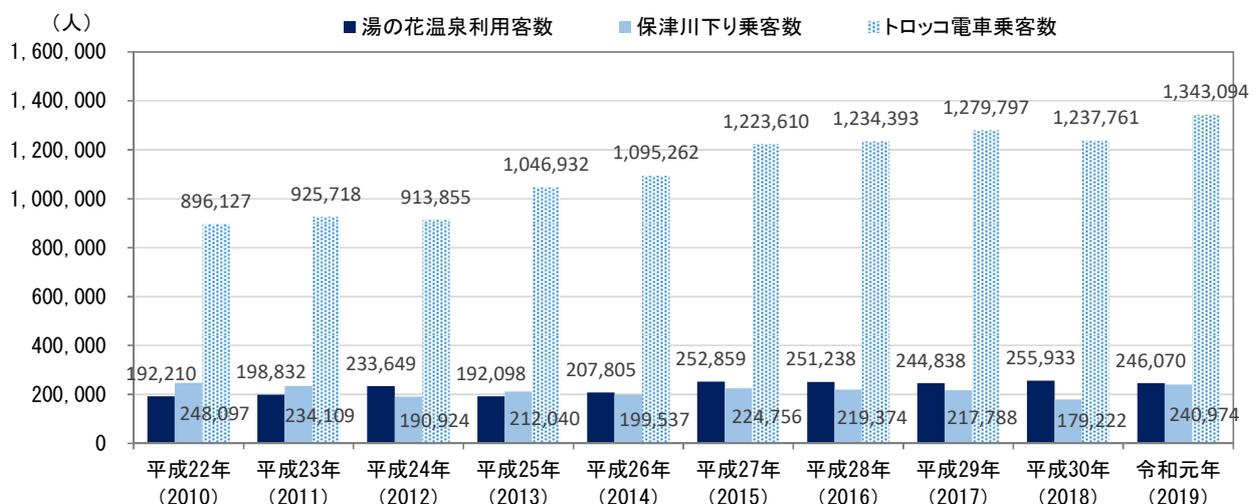
令和元年の三大観光の利用者数をみると、保津川下りが240,974人、トロッコ列車が1,343,094人、湯の花温泉が246,070人となっています。

### ■観光入込客数の推移



資料：亀岡市統計書

### ■観光施設利用客数の推移



資料：亀岡市統計書

### (3) 自然的特性

亀岡市内を流れる各河川は、いずれも重要な水資源として農業用水などに利用されており、19の河川に定点を設け、定期的に水質検査を実施しています。水質（BOD）は、年谷川（桂川合流前）を除くと概ね2.0mg/ℓ以下で、環境基準のA類型程度となっています。

亀岡市の河川には、岡山県との2地域にのみ生息し、国の天然記念物及び、種の保存法に基づく国内希少野生生物に指定され、環境省レッドリスト絶滅危惧種にもなっているアユモドキをはじめとした多様な水生生物が生息しています。亀岡市にとって環境のシンボルであるアユモドキを守る為、関係する民間団体と行政機関が一体となって保護増殖事業に取り組んでいます。

■主要河川のBOD推移(年間平均値)

測定地点		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
鶉の川	めがね橋	0.7	0.5	<0.5	0.7	0.8
	桂川合流前	0.6	0.6	0.5	0.9	0.7
西川	下条橋	1.2	2.0	1.0	1.2	1.2
	桂川合流前	1.0	0.8	1.0	1.5	1.0
年谷川	鋤山神社	0.8	0.3	<0.5	1.0	1.4
	桂川合流前	1.9	2.4	2.2	6.9	1.6
雑水川	医王谷	0.8	0.5	0.6	0.7	0.7
	南郷橋	1.2	1.0	1.3	1.9	1.1
曾我谷川	春日部	0.7	0.5	0.7	1.0	0.8
	桂川合流前	0.9	0.6	0.7	1.8	0.7
赤川	宇津根踏切	1.0	0.9	1.0	1.2	1.4
法貴谷川	法貴	1.0	0.7	0.7	0.7	0.9
犬飼川	養鶏場下	1.5	1.3	1.7	1.5	1.5
	川西	1.2	0.5	0.6	0.6	0.7
	倉谷橋	0.9	0.4	0.6	0.8	0.8
	小幡橋	0.6	0.6	0.5	0.8	1.1
	桂川合流前	1.0	0.9	0.7	1.3	0.9
栢原川	落合橋下流	0.8	0.5	0.8	0.8	0.7
	九折橋下流	0.6	0.6	0.9	0.8	0.8
砂川	鹿谷	1.1	0.5	0.8	1.0	1.0
	染色工場下	1.3	1.1	1.3	1.1	0.9
山内川	芦ノ山	0.9	0.5	0.7	0.8	1.4
	夫婦松橋	1.1	0.8	1.0	0.9	0.8
	山内川橋	1.2	0.8	0.7	1.7	0.8
願成寺川	法然寺	1.5	1.2	1.2	3.3	1.5
千々川	行者橋	1.0	0.8	0.9	1.0	1.2
	JR鉄橋	0.7	0.8	0.7	1.4	1.0
古川	古川橋	1.0	1.4	1.1	1.4	1.8
七谷川	若宮橋	0.8	0.9	0.8	1.5	1.1
	キャンプ場付近	0.4	0.4	<0.5	0.7	0.7
本梅川	水橋	1.0	1.1	0.9	1.3	1.0
大路次川	あたご橋下流	0.4	0.4	0.6	1.0	0.8
愛宕谷川	愛宕橋	0.6	0.4	<0.5	0.8	0.6
桂川	寅天井堰下流	0.8	0.6	0.7	0.9	0.9
	保津峡入口付近	0.9	0.5	0.7	0.8	1.2

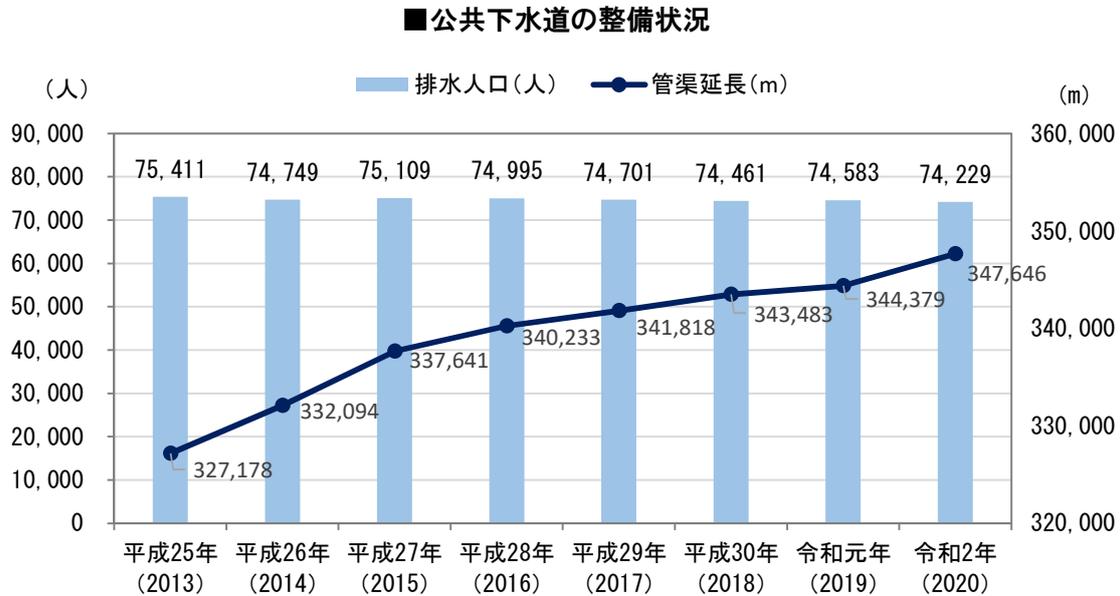
資料：亀岡市環境白書データ集

※BODとは、Biochemical Oxygen Demand（生物化学的酸素要求量）の略で、水の有機性物質による汚濁の度合いを示す指標です。水中の微生物は、酸素を取り込み有機物を分解して、水をきれいにします。BODは、この時に必要な酸素の量で、この数値が大きいくほど水が汚れていることを表します。単位は一般的にmg/ℓで表し、BOD値が10mg/ℓ以上になると悪臭の発生がみられます。

## (4) 生活環境特性

### ① 下水道の整備状況

亀岡市における公共下水道の整備状況をみると、令和2年度末現在で認可面積は1,770haのうち1,202haを整備し、総人口普及率は84.6%（排水人口：7,4229人）まで向上しました。

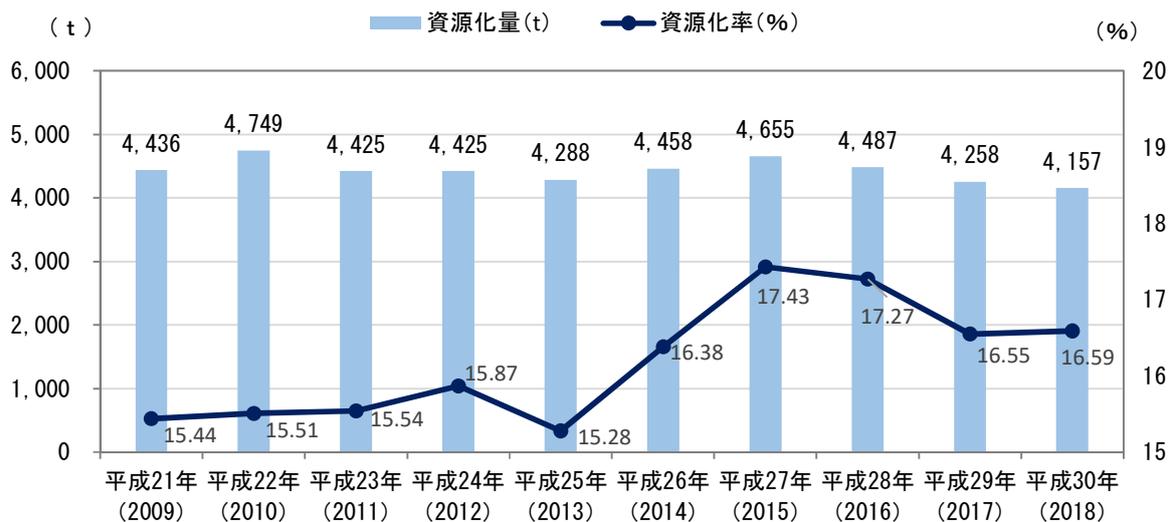


資料：亀岡市統計書 ※市下水道課

## ②ごみ資源化の状況

亀岡市における資源の再利用については、ペットボトルの拠点回収や新聞・雑誌・段ボール・古布の集団回収報奨金制度などにより、資源化が進んでいます。資源化量の増加に伴い、ごみ処理量は減少傾向で推移しています。

### ■ごみ資源化量の推移



資料：亀岡市環境白書データ集

### ■ごみ処理量の推移



資料：亀岡市環境白書データ集